卒業論文

子育て女性の再就職過程における見えづらい困難

2019 年度入学

九州大学　文学部　人文学科　人間科学コース

社会学・地域福祉社会学専門分野

1LT19068M　荒木南美

2023 年 1 月提出

要約

本研究では、出産や子育てを理由に仕事を辞めた女性が、子育てが落ち着いてきて再び働き始めたいと考えたときにどういった困難に直面しているのか明らかにすることを目的としている。

第 1 章では、対象とする子育て中の女性について、無職の既婚女性のうち、子どもがいる女性の数について確認し、育児休業取得率と出産による離職率についても述べている。また、女性の就業状況について整理した上で、パートタイマーをはじめとする非正規雇用労働者が非正規雇用を選択した理由について年齢階級別に確認し、「仕事と家庭の両立」や「家計補助のため」といった家庭のことを優先させた理由が多数を占めることが把握できた。続いて、子育て中の女性の労働に関連する法制度について述べ、近年の性別役割分業意識の傾向についても明らかにしている。

第 2 章では、女性の就業継続、家事分担と女性の就労、再就職行動の要因という 3 つの観点から先行研究をまとめている。女性の就業継続に関してはこれまでに育児休業取得の要因が詳細に検討されてきた。また、家事分担の研究では、複数の仮説が検証されており、女性の就業状況との関連についても研究が進められている。再就職行動の要因については、夫の収入や子どもの数が主なものとして上げられた。最後に先行研究をふまえて本研究の目的について述べている。

第 3 章では、調査の概要について述べており、第 4 章で再就職を果たした 2 名の女性がどのような過程を経て就職するに至ったのか、就職前と就職後に分けてそれぞれ述べている。2 名の女性の再就職過程について共通している点として、再就職を意識してから、すぐに面接を受けたというわけではなく、再就職希望者向けのセミナーを受講するなどして準備を重ねてから再就職を果たしていた。その際に、自身の行いたい仕事やキャリアの実現を優先させるというよりも、家事負担があることや子どもとの時間を確保することを念頭において、短時間勤務が可能なパートタイマーを選んでいた。また、就職後は自分の希望する仕事内容を任せてもらえないなどの葛藤が生じて、再就職した会社を離職している。その後は、転職活動を経て、現在も働いている。

第 5 章と第 6 章では質的データ分析法（佐藤郁哉 2008）に基づいて、就職前と就職後の困難について分析を行っている。就職前の困難として、【離職により就職に不利な状態】、【周囲の再就職への価値観】、【外で働きづらい状況】、【支援制度の不足】、【自己の抑

圧】、【再就職への不安と自信の喪失】、【就職活動に踏み出す際の葛藤】の 7 つの概念的カテゴリーが生成された。また、就職後の困難は【家庭責任の維持】、【パート職が抱える葛藤】、【企業の固定観念】、【相談の難しさ】の 4 つの概念的カテゴリーから形成されていた。

第 7 章では、第 5 章と第 6 章の分析をもとに、再就職を希望する女性が抱える困難についてこれまでなぜ焦点が当てられてこなかったのかを考察している。

最後に第 8 章ではこれまでの分析をまとめ、本研究の限界について述べている。再就職を果たしたインタビュー対象者が 2 名に限られていることから一般化には限界がある。また、当事者だけではなく支援者からの語りも含めて分析を行っていることに留意が必要であるが、支援者からも聞き取りをすることで、子育て中の女性が抱える葛藤についても明らかにすることができた。

目次

はじめに 6

1　子育て女性と就業の実態 8

1.1　子育て女性の数と就業状況 8

1.1.1　専業主婦の数 8

1.1.2　女性の就業継続について 9

1.1.3　既婚女性の就業形態 10

1.2　法制度と就労支援 12

1.2.1　育児休業法について 12

1.2.2　非正規雇用労働者に関する法律 13

1.2.3　配偶者控除と社会保険 13

1.2.4　就労支援政策に関して 14

1.3　性別役割分業に関して 14

1.4　小括 16

2　先行研究 17

2.1　就業継続について 17

2.2　女性の就業と家事分担について 17

2.3　再就職行動について 18

2.4　研究の目的 20

3　調査概要 22

3.1　調査対象者について 22

3.2　WorkStep 株式会社について 23

4　実際の再就職過程 25

4.1　森田さんの再就職過程 25

4.1.1　就職前 25
4.1.2　就職後 28
4.2　三好さんの再就職過程 31
4.2.1　就職前 31
4.2.2　就職後 34
4.3　小括 36
5　就職前における困難の分析 38
5.1　分析方法 38
5.2　就職前に生じる困難 38
5.2.1　【離職により就職に不利な状態】 39
5.2.2　【周囲の再就職への価値観】 43
5.2.3　【外で働きづらい状況】 45
5.2.4　【支援制度の不足】 46
5.2.5　【自己の抑圧】 48
5.2.6　【再就職への不安や自信の喪失】 49
5.2.7　【就職活動に踏み出す際の葛藤】 49
5.3　就職前における困難の相互の関連性 50
6　就職後における困難の分析 52
6.1　就職後に生じる困難 52
6.1.1　【家庭責任の維持】 52
6.1.2　【パート職が抱える葛藤】 55
6.1.3　【企業の固定観念】 56
6.1.4　【相談の難しさ】 56
6.2　就職後における困難の相互の関連性 58

7　考察 59

8　終わりに 61

注

参考文献

謝辞